



時間・空間と山水の景を表現し、自然にある姿以上の美しさを求めていく日本の伝統的な芸術「盆栽」を通して、自分の中の新境地を開いてみては？



(右上) 朱色が鮮やかな大宮氷川神社の楼門。一步入るとそこは神域。休日には多くの参拝者が訪れる。  
(右下) 大宮公園は、ソメイヨシノを中心に約1,200本の桜が咲き誇る県内屈指の桜の名所。シーズンには十数万人の花見客でにぎわう。  
(左) 「氷川の杜文化館」の1階ロビーから中庭の日本庭園に出られる。散歩途中で立ち寄るにはピッタリのお休み処。



# 大宮公園

安らぎと開放感にあふれる空間

そして武蔵国<sup>むさしのくに</sup>の宮・大宮氷川神社へ。ここは、日本でも指折りの古社で、平安前期に朝廷が編さんした「延喜式神名帳」に、全国の著名な神社とともに記載されている格式の高い神社です。氷川神社の名を有する神社は数多くありますが、その中心がここ大宮氷川神社なのです。「大宮」の地名もこの神社が「大なる宮居」であったことに由来しています。運がよければ、池の主である「亀」の陸散歩にも出会えたりします。

太陽を浴びて心も体もリフレッシュ

境内を抜けると、大宮公園が広がります。園内には、約1200本の桜や日本庭園のほかに、硬式野球場やサッカー場、水泳場、体育館、弓道場、小動物園、児童遊園地などさまざまな施設があります。太陽の光を浴びながら池の周りを歩くと、心身ともにすっきり、リフレッシュできます。今年からJリーグ1部に昇格した、大宮アルディージャのホームスタジアムでも

ある「大宮公園サッカー場」は、東京オリンピックの会場として造られた日本初のサッカー専用スタジアムです。サッカーの神様ペレやマラドーナも、ここでプレーしたそうです。

一方で、大宮公園は文化人にも好まれ、森鷗外や夏目漱石、正岡子規など二流の文士も訪れました。

「連なりて残る雪ある木の間かな」

この句は昭和8年冬、「武蔵野探勝会」と銘打って吟行の旅をしていた高浜虚子<sup>たかひな きよこ</sup>が、大宮公園を訪れたときに詠んだものです。



参道の端にひっそりと置かれている丁石。「丁」とは昔の距離の単位で、1丁はおよそ109m。これは復元したもので、原石は市立博物館で見ることができる。

# 盆栽村

もうひとつの「楽天」ものがたり

大宮公園を抜けて少し歩くと、大宮で生まれ育った日本近代漫画の先駆者・北沢楽天<sup>きたざわ たくてん</sup>の作品や遺品を展示した「漫画会館」があります。

「コミック」という言葉を最初に「漫画」と和訳したのは楽天だったそうです。彼の時事漫画や風刺画には、明治から昭和にわたる庶民の生活や世相をユーモラスに垣間見ることが出来ます。

伝統の中に今を見る「文化」のまち

大宮公園の北、10万坪のエリアにある盆栽村。関東大震災で被害を受けた数軒の盆栽業者が、盆栽の栽培に適した



こんなかわいらしい「盆栽」もあり、数千円程度から買うことができます。ただし、小さくても値が張るものがあり、値段と大きさは無関係なのでご注意ください。



「最近では女性や若い人に盆栽体験教室が人気です。ぜひ一度、盆栽村を訪れてみてください」と話す盆栽園「清香園」の山田香織さん。

土地を求めて、東京からこの地に移住したのが村の始まりです。毎年5月上旬には「大盆栽まつり」が開催され、盆栽のメッカとして、海外からも多くの愛好家が訪れます。

「盆栽四季の家」でひと休みしたあとは、ぜひ盆栽園をまわってみてはいかがでしょうか。どの園も無料で拝観することができます。見るだけでなく、もちろん買うこともでき、最近では若い女性にも人気があるそうです。

都心のオアシスともいえる今回の散歩道。さらに魅力ある空間にするため、これからも市民の皆さんと協働でまちづくりを進めます。